

日立とオラクルが大規模位置情報管理システムを提供

日立製作所ワイヤレスインフォベンチャーカンパニー(以下：日立、本社：東京都千代田区、カンパニー長&CEO:木下泰三)と日本オラクル株式会社(以下：日本オラクル、本社：東京都千代田区、代表取締役社長:新宅正明)は、日立が提供する位置検知システム「日立 AirLocation™」が「Oracle Database 10g」に対応し、オラクルが提供する位置情報管理フレームワーク「RTLS フレームワーク：Real Time Locating System フレームワーク」が利用可能な位置検知システムとして「日立 AirLocation™」に対応することを発表します。両者を組合せた大規模位置情報管理システムは2005年9月から提供開始します。両システムを連携させることにより、大規模システム対応時の「日立 AirLocation™」における信頼性、堅牢性がさらに向上します。

「日立 AirLocation™」は、GPS(Global Positioning System)などが不得意な、屋内や電波が届かない密閉空間で無線 LAN の通信インフラを活用した高精度な位置検知ができるシステムです。PDA や無線 IP 電話など様々な無線 LAN 端末がそのまま利用できるメリットから、今までに施設のセキュリティ、工場の工程管理、自動車関連、物流倉庫など多くの国内現場で利用されてきました。今後は産業社会のさらなる IT 化需要により位置管理端末数と位置検知回数が増え、また管理エリアも広大になっていき、業務システムとの連携の需要が増大すると想定されることから、大規模システムへの対応が急務となっております。

「Oracle Database」のクラスタリング機能「Oracle Real Application Clusters 10g」は、ノード数の増加に対して正比例した性能を確保することができます。ノードの追加は、単にシステム全体の性能向上をもたらすだけでなく、単一もしくは複数のノードの障害が発生しても、残りのノードで運用が継続できることから、24 時間 365 日止まらない、信頼性の高いシステムを構築することが可能になります。

また、オラクルの位置情報管理フレームワーク「RTLS フレームワーク」は、「Oracle Database 10g」と「Oracle Application Server 10g」の機能を活用し、位置検知データの取得から、履歴情報の格納、空間検索のための位置データ変換、空間検索 API、Web UI での位置・情報表示機能を提供するもので、このフレームワークによりオラクルが多くの業種で構築している大規模業務データを容易に位置情報と連携させることが可能です。

今回、両社のシステム「日立 AirLocation™」と「RTLS フレームワーク」を連結させることにより、(1)より高度な位置情報データの管理、加工編集、検索、表示が可能となり、(2)広大な工

リアで基地局数や位置検知端末数の多い大規模システムを収容稼働できると共に、(3)システム全体の信頼性、堅牢性の確保が可能となります。これにより例えば、作業員数の多い工場の生産工程管理、多くのコンテナが出入りする倉庫や港湾、広大なエリアに置かれた自動車の販売店や駐車場、多くの人を利用するショッピングセンタやテーマパーク、駅、空港、病院などの公共施設、などで高い需要が見込まれる業種アプリケーションをターゲットに、両社協力して営業活動を活発にしていく予定です。

本システムに関するお問合せ先：

株式会社 日立製作所 ワイヤレスインフォベンチャーカンパニー 【担当：木下】

〒101-8608 東京都千代田区外神田一丁目 18 番 13 号

電話(03)4564-9205(直通)

日本オラクル株式会社【担当：小林】

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 4-1 ニューオータニガーデンコート

電話(03)6238-7309(直通)

Oracleは、Oracle Corporationの登録商標です。本文中の商品名は、各社の商標または登録商標です。

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
